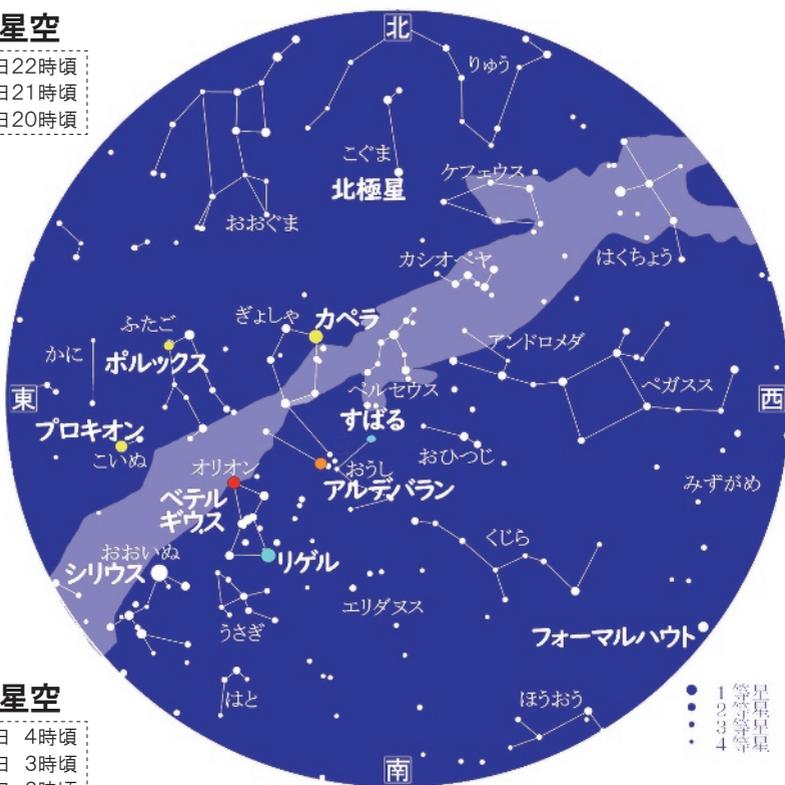


星空ガイド 12月16日～1月15日

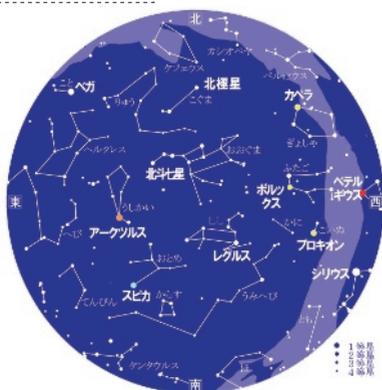
よいの星空

12月16日22時頃
1月 1日21時頃
15日20時頃



あけの星空

12月16日 4時頃
1月 1日 3時頃
15日 2時頃



● 1 等星
● 2 等星
● 3 等星
● 4 等星

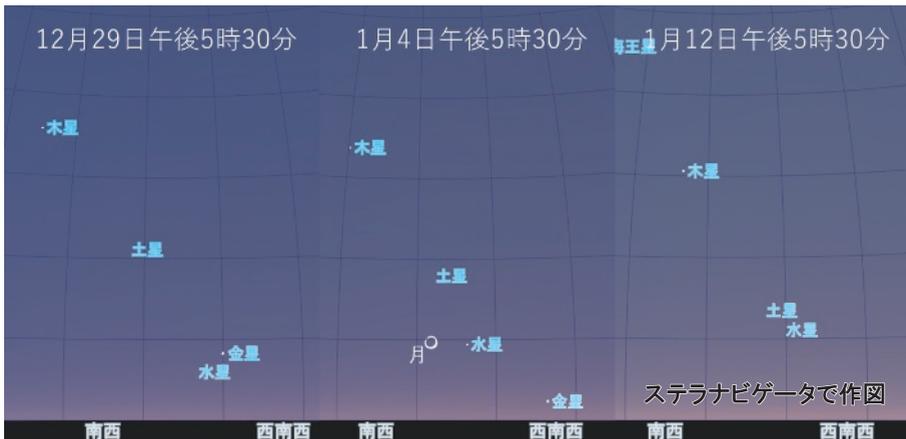
[太陽と月の出入り(大阪)]

月	日	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
12	16	6:58	16:48	14:50	4:03	11.8
	21	7:00	16:51	18:27	8:39	16.8
	26	7:03	16:53	23:29	11:37	21.8
1	1	7:05	16:57	5:14	15:11	27.8
	6	7:05	17:01	10:01	20:54	3.4
	11	7:05	17:06	12:23	0:59	8.4
	15	7:04	17:10	14:41	4:49	12.4

※惑星は2022年1月1日の位置です。

年末年始は、夕空に水、木、金、土星がせいぞろい

年末年始は夕方の南西の空に、水星、木星、金星、土星がせいぞろい。なかでも水星は位置もわかりやすく、空気が澄んでいる時期で見つけるチャンスです。図を示します。



1月4日早起きして、しぶんぎ座流星群

流星が多く流れる、しぶんぎ座流星群が新月の翌日かつ明け方に極大となる絶好の条件です。極大は4日の未明4時ですので、1月3日の夜に夜更かしか、4日に早起きして観察すると、流れ星の数が多く見られます。また、夜中0時ごろには、北の地平線すれすれから、空を横切るほど長い流星(アースグレイザー)が飛び出して見えることがあります。数は少ないのですが見られたら見物です。早起きが苦手な人はこちらをねらってもいいでしょう。

流れ星を見るのに道具はいりません。空が広く見えるところで、頭の真上を、すわったり寝転んだりして見上げましょう。あ、寒さ対策はわすれずに！

[こよみと天文現象]

渡部 義弥(科学館学芸員)

月	日	曜	主な天文現象など
12	18	土	月が最遠(406,300km)
	19	日	○満月(14時)
	22	水	冬至
	23	木	こぐま座流星群が極大のころ
	27	月	●下弦(11時) 火星とアンタレスが接近
	29	水	夕空に水星と金星が接近

月	日	曜	主な天文現象など
1	2	日	月が最近(358,000km)
	3	月	●新月(4時)
	4	火	地球が近日点通過 夕空に月と水星、土星がならぶ しぶんぎ座流星群が極大(4時)
	5	水	小寒
	7	金	水星が東方最大離角
	9	日	金星が内合
	10	月	●上弦(3時) / 成人の日
	13	木	夕空で水星と土星が接近
	14	金	月が最遠(405,800km)

月	日	曜	主な天文現象など
1	1	土	元日 / 明方の低空に月と火星がならぶ / 南極で火星食